# 2025年度第２回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅱ （2025年９月28日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさん（77歳）は、15年前に大手メーカーを退職し、三大都市圏近郊のＳ市内にある自宅で妻Ｂさん（75歳）と暮らしている。１人息子の長男Ｃさん（50歳）は公務員で、同市内にある分譲マンションで妻と２人の子（ＤさんとＥさん）と暮らしている。Ｄさん（22歳）は来春大学を卒業予定であり、就職先も決まっている。Ｅさん（18歳）は医学部を目指して受験勉強中である。

先日、長男Ｃさんは、Ａさん夫妻のもとを訪れ、「Ｅは、何とか志望する医学部に合格する見込みがでてきた。しかし、私の貯蓄と収入では学費を全額賄うことはできそうにない。初年度に500万円、２年度目以降５年間、毎年400万円ずつ不足する見込みであり、資金を援助してもらえないだろうか」と相談を持ちかけた。Ａさんと妻Ｂさんは話し合い、「Ｅが医師になる夢を叶えるためなら、できるだけの援助をしよう。また、この機会にそろそろ将来の相続について計画をたててみよう」ということになった。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金等の金融資産　：　5,000万円（借入金はない）
２．自宅
　①甲土地（200㎡）　：　3,000万円
　②甲建物（130㎡）　：　500万円
３．賃貸マンション（３階建て12室の一棟）
　①乙土地（300㎡）　：　4,000万円（貸家建付地評価）
　②乙建物　：　1,200万円（貸家評価）
４．丙土地（1,000㎡）　：　100万円

※丙土地は、父親から相続した郷里（三大都市圏外）にある更地の宅地である。
※Ａさんの年間収入（税引後）は1,100万円（公的年金250万円、金融資産運用益50万円、賃貸マンション純収益800万円）である。

なお、丙土地は、都市計画区域外に所在しており、固定資産税と草刈り等の管理費が毎年10万円程度かかっている。Ａさんは、活用方法がなく、維持管理に手間と費用がかかる丙土地を手放したいと思っているが、地元の不動産会社の話では、購入希望者は見込めないとのことである。また、地元自治体に寄附の相談もしてみたが、引き取ることはできないと回答された。Ａさんは、有効活用のできない丙土地の問題を自分の代で解消したいと思っている。

【Ａさんの計画】

Ａさんは、長男Ｃさんに、現金（初年度納入金の不足額500万円）と、賃貸マンション（乙土地・乙建物）の持分の２分の１を贈与し、その賃貸収入で２年度目以降の不足額を補填させようと考えている。また、丙土地については、不動産引取サービスを行っているＸ社から、引取料100万円を支払えば引き取るとの提案を受けており、検討したいと考えている。

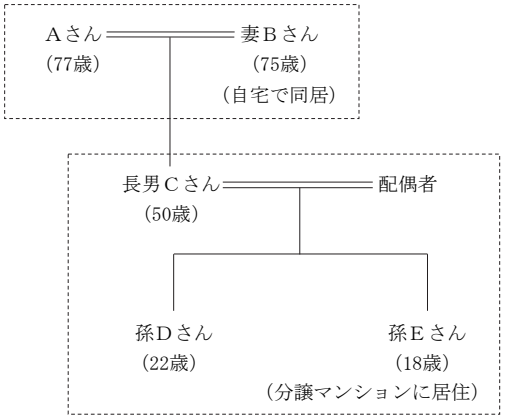
Ａさんは、孫Ｅさんの学費支援方法や丙土地の処分について、自身の計画に何か問題はないか、ＦＰであるあなたに相談することにした。

（ＦＰへの質問事項）

１．Ａさんに対して、最適なアドバイスをするためには、示された情報のほかに、どのような情報が必要ですか。以下の①および②に整理して説明してください。
　①Ａさんから直接聞いて確認する情報
　②ＦＰであるあなた自身が調べて確認する情報
２．孫Ｅさんの学費支援として、Ａさんの考える計画は妥当ですか。問題があるとしたら、代わりにどのような方法を提案しますか。
３．丙土地をＸ社の提案により処分する前に、他に確認すべきことはありますか。Ｘ社の提案により処分する場合、どのようなアドバイスをしますか。
４．本事案に関与する専門職業家にはどのような方々がいますか。

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

【親族関係図】




（メモ余白）